

強風のなかで行われた第十一回市民タイムス杯少年サッカー新人戦は決勝戦で須坂が筑摩野を2-1で下して初優勝した。須坂は終始ボールを支配。筑摩野は悪コンディションで思いどおりのサッカーができなかった。松本地区以外のチームの優勝は初めて。

▽決勝

須坂 2 (2-0) 1 筑摩野

【評】強風のなか両チームともボールコントロールに苦しみ、筑摩野は2で惜敗した。須坂は積

伝田明康須坂監督の話 前半の2点は風のおかげで、自分たちのサッカーはできなかった。去年の夏、六年生が全日本少年サッカー大会の県代表になったことが自信となり、今大会の優勝にもつながった。この優勝を機

に来年の全日本出場にもつなげたい。

安西祥一須坂主将の話 風が強く難しい試合だったが、みんな気持ちを緩めず、気合を入れていたのが優勝につながったと思う。



初優勝を飾った須坂

極的に左右に展開するオワン攻撃などで攻めた。前半5分、中央付近

からの筑摩野のクリアミスが、風で筑摩野ゴールに飛び込んで1点。15分には、浜田充君(五年)

吉田益孝筑摩野監督の話(決勝で)最後まであきらめずに1点を返すなど、チーム十二人がまとまってよく頑張った。この結果は選手の話(決勝で)最後まで信につながる。川合健太筑摩野主将の話 力のある北信勢に何回も勝てたのがうれし

好機をつくったが攻めあぐんだ。終1分前、宇治拓郎君(四年)がドリブルで突破してシュート

を放ち、1点をかえした。須坂4(3-0)0松島

▽準々決勝
筑摩野3(3-0)0木曾
長野2(1-0)0吉田
須坂4(2-1)0堀花
▽準決勝
筑摩野2(0-0)1長野
須坂4(2-0)1堀花

松本地区外から初の優勝

広がった友情の輪



準優勝の筑摩野



3位の堀花



3位の長野



【須坂—筑摩野】筑摩野は宇治君が中央を鋭いドリブルで切り込みシュート

両太ももに躍る「必勝」

筑摩野・川合主将 ○：北信勢躍進の中、地元チームとして健闘した筑摩野イレブン。準決勝では、昨年準優勝の長野を振り切って見事に決勝進出を果たした。主将の川合健太君(五年)は十五日から熱を出し、「頭がガンガンする」と言いながら志願して出場。両方の太ももには、試合のたびに自分で書くという「必勝、優勝」の文字が躍っ

課題に挑戦 松島チーム

○：準々決勝で姿を消したが、健闘した松島チーム。前へ運ぼうとする気持ちとはどこにも負けないと思うが、8強に残れるとは思っていない。と小沢佑介主将(五年)。「個々のプレーに磨きをかけ、マラクを徹底したい。次

の大会ではよりよい成績を」。気持ちを切り替え、新たな課題への挑戦を意欲的に語っていた。

宇治拓郎君(筑摩野)の話(決勝戦後半、1

点差に迫るシュートを決めた。このまま負けたくないと思って押し込んだ。点をどつても勝てない悔しい。また練習を頑張りたい。

第11回タイムス杯少年サッカー

SGC 寿

新田・堀ノ内 斉様
新田・山田ゆかり様

0120-412239